資料３

宮城県における感染症発生状況と対策について

〇感染症診査協議会の諮問対象となっている一類感染症、二類感染症、三類感染症及び新型インフルエンザ等感染症の発生状況は以下のとおりである。
〇感染症発生時は、保健所での積極的疫学調査、接触者健診等によるまん延防止に努めている。

1　一類感染症

感染症法が施行された平成 11 年以降、全国での発生はない。

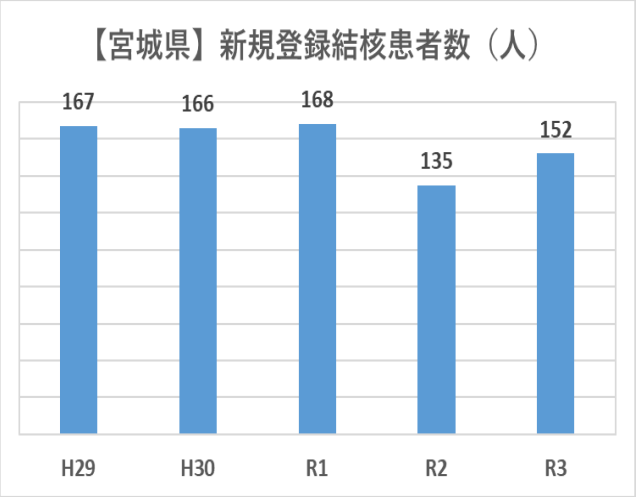
2　二類感染症

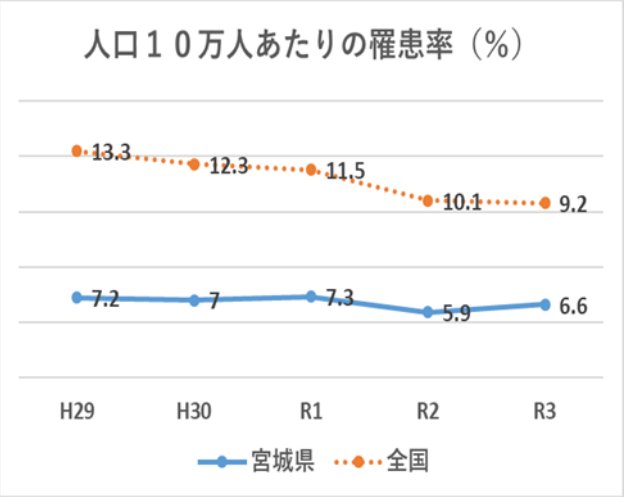
全国では平成 11 年から平成 25 年の間にジフテリアが 1 件、急性灰白髄炎（ワクチン株由来）が 7 件報告されているが、それ以外は結核のみである。

なお、新型コロナウイルス感染症を除いて、結核は全数把握感染症のなかで最も報告数が多い感染症である。

【結核（結核登録者情報調査による)】

新規登録患者数及び罹患率の算出については、流行の監視に加えて患者服薬支援のモニタリングが可能となる上記調査を活用している。





① 現状

・結核は、新型コロナウイルス感染症を除いて、本県での新規登録患者数、罹患率が最も多い感染症である。
・平成 23 年以降、本県の罹患率は低まん延化の基準である 10 を下回り、令和 3 年の罹患率（6.6）は全国平均と比較して低い値となった。
・新規登録患者数のうち約半数が 80 歳以上の高齢者であるほか、20～30 代では外国生まれ患者の増加が顕著となっている。

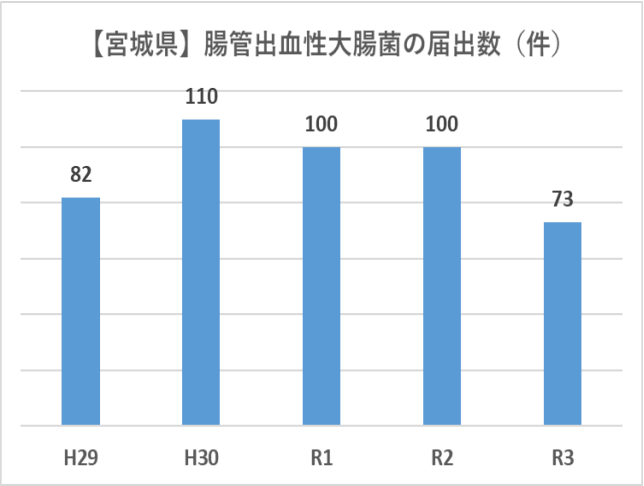
② 対策

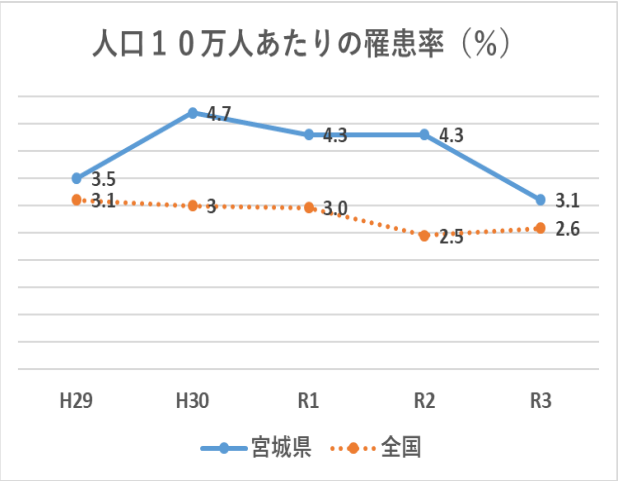
・医療機関と保健所が連携した確実な服薬支援

・高齢者や外国生まれ患者への対応強化

3　三類感染症

【腸管出血性大腸菌感染症（発生動向調査事業年報による）】





① 現状

・各年の罹患率は全国よりも高値で推移している。

・一般に O157、O26 といった血清型が多いとされるが、本県においても過去 3 年間全体の半数以上（R1：68%、R2：63%、R3：59%）を占めていた。

② 対策

・遺伝子検査の強化

・食品衛生部門との連携強化

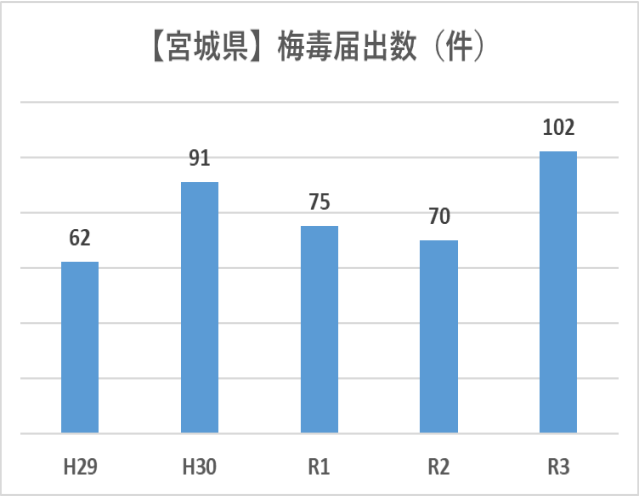
・流行時期を意識した注意喚起

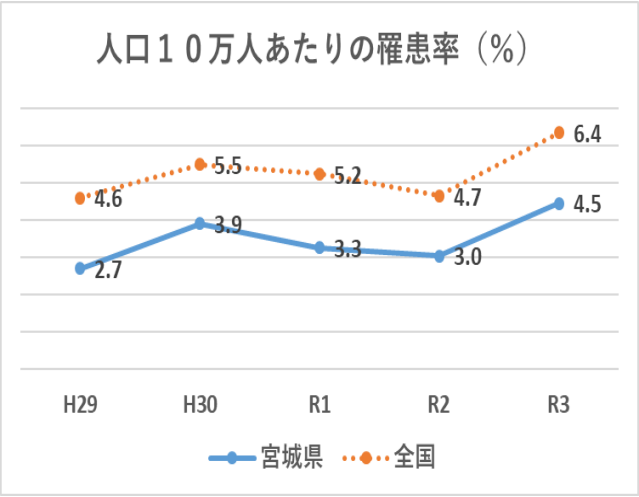
4　新型インフルエンザ等感染症

平成 21 年の新型インフルエンザの大流行以降、全国での発生はなかったが、令和 2 年から新型コロナウイルス感染症が大流行した。新型コロナウイルス感染症は令和 5 年 5 月 8 日をもって、五類感染症へと位置づけが変更となっている。

5　その他の感染症について

【梅毒（発生動向調査事業年報による）】





①　現状

・全国的に若年層の患者増加が問題とされている。本県では令和３年度に届出数・罹患率が増加している。

・本県の罹患率は全国より低い値で推移しているものの、今後の動向を注視する必要がある。

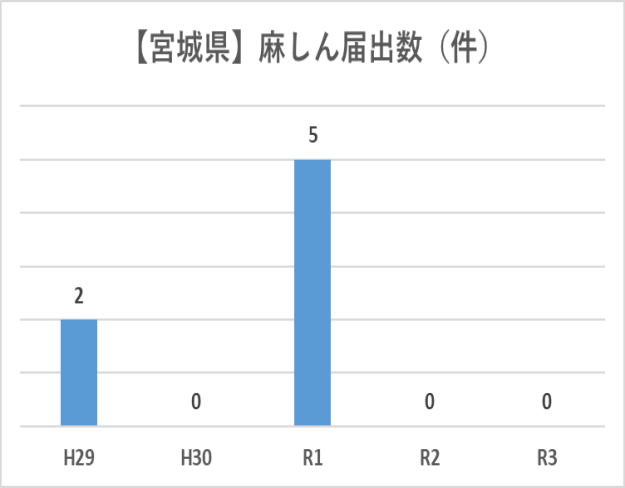
②　対策

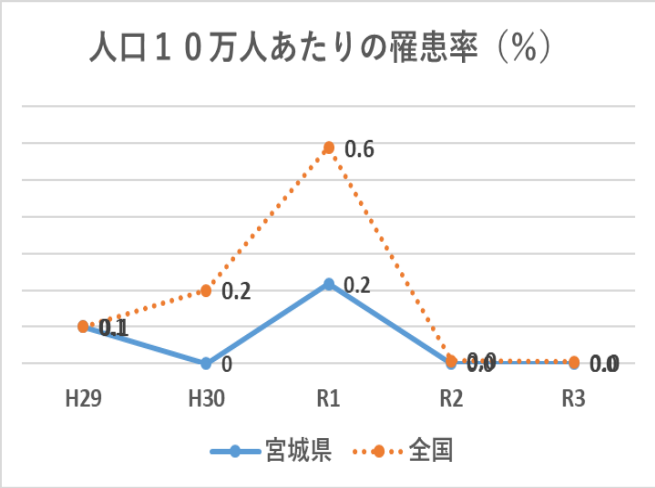
・感染原因及び経路の詳細な分析

・県内保健所における抗体検査やイベント検査の開催

・ホームページ等での周知や注意喚起

【麻しん（発生動向調査事業年報による）】





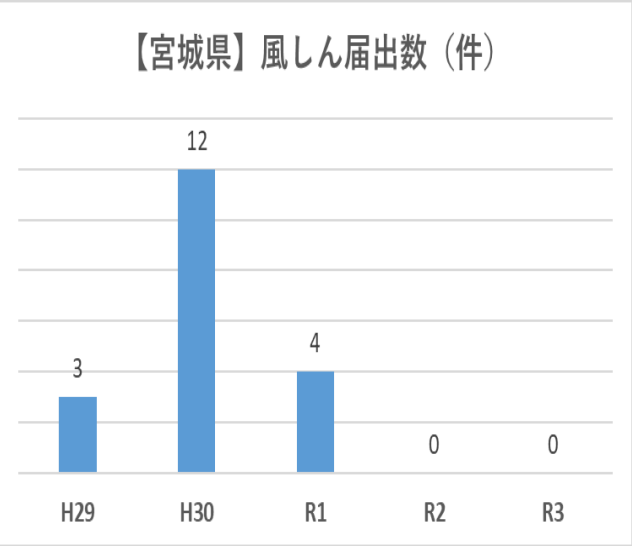
①　現状

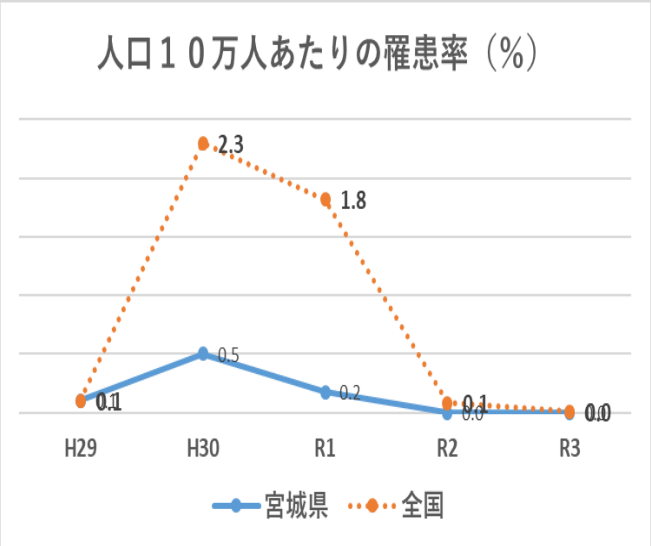
・麻しんは、平成 27 年３月に世界保健機関により国内排除が宣言された感染症であるが、国外では流行しているため、国外で感染し、日本に帰国後に発症する事例が確認されている。

②　対策

・ホームページ等での周知や注意喚起

【風しん（発生動向調査事業年報による）】





① 現状

・平成 30 年に首都圏を中心に大規模な流行が見られた。

・本県の罹患率は全国より低い値で推移している。

③ 対策

・先天性風しん症候群の発生防止等を目的とした抗体検査・予防接種の強化

・ホームページ等での周知や注意喚起